地質学雑誌　第115巻　第5号（通巻1364号）付録　平成21年5月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.12 No.5 May 2009

シリーズ第2弾！新発売

国立公園リーフレット　たんけんシリーズ2

屋久島地質たんけんマップ

ー洋上アルプスは不思議な地質がいっぱいー

編　著：日本地質学会地学教育委員会
　　屋久島地学同好会
発　行：日本地質学会
B2版　12折　両面フルカラー印刷

かわいいキッキくんとシカノスケ博士が
屋久島の地質をわかりやすく紹介してくれます。

裏面は、地図で示した観察ポイントごとに
写真やイラスト付きでわかりやすく解説。
ハンディタイプで、野外での観察にも最適です。
教材としても是非ご活用下さい。

会員頒価 300円

※20部以上ご注文の場合は割引あり

シリーズ1
「箱根火山たんけんマップ」も
好評発売中！

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

日本地質学会*News*

Vol.12 No.5 May 2009

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

案内 ……2
化石研究会50周年記念総会・討論会/第25回ゼオライト研究発表会

公募 ……2
茨城大学理学部理学科地球環境科学領域教員の公募

各賞・助成 ……2
第４回「科学の芽」賞募集/住友財団2009年度基礎科学研究助成

CALENDAR ……3

紹介 ……4
Art Forms in Nature：生物の驚異的な形　エルンスト・ヘッケル著（岡田博有）/書評・献本

地質の日イベント報告 ……5
特別講演会　火山はすごい！－日本列島の火山をさぐる

専門部会だより ……6
構造地質部会：2008年度例会（2009年３月長岡例会）参加報告

支部コーナー ……7
北海道支部：「北海道地質百選」のウェブサイトを全面的に更新しました/関東支部：第６回技術伝承講習会―地質技師長に聞く地質工学余話シリーズ・第２回支部研究発表会・日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・支部総会のお知らせ

院生コーナー ……9
12th International Palynological Congress and 8th International Organisation of Palaeobotany Conference 参加報告（田中智史）

2009年会費払込について ……10

追悼 ……11
名誉会員・勘米良亀齢先生の御逝去を悼む（佐野弘好）

学会記事 ……12
2008年度第12回理事会議事録/2008年度第13回理事会議事録/2008年度第４回定例評議員会議事録

巻末　入会申込書

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

表紙紹介

1930年代の阿蘇火山，中岳火口の絵はがき

Postcards of Nakadake crater, Aso volcano in the 1930s

写真・文　**古川邦之**（愛知大学），
須藤靖明（阿蘇火山博物館）

観光地の絵はがきは，その時代の性格を如実に表しており非常に興味深い資料である．これらの絵はがきは1930年代のもので，当時の阿蘇火山，中岳火口の様子を示している．当時は噴火が繰り返し起きており，現在に比べると非常に活発な状態であった．それにも関わらず，噴煙間近に迫る火口見物が盛んであった（写真上）．さらに人々は，休止中の火口底（第３火口）において野球まで楽しんでいる（写真下）．これは1932年11月に行われた，登山バス主催の野球大会である．この３ヶ月後には，第３火口の隣にある第１火口および第２火口が相次いで活動し，噴石や降灰による被害を広範囲にもたらした．

第116年学術大会（岡山）：事前参加申込および講演申込　受付開始

第116年学術大会（2009　岡山大会）の事前参加登録及び，講演申込の受付が開始されました．参加を予定されている皆様にはお早めのご登録をお願いいたします．詳しくは，ニュース誌４月号もしくは，学会ホームページをご覧下さい．

事前参加登録締切：
WEB；8/17（月）18：00　郵送/FAX；8/10（月）必着
講演申込締切：
WEB；6/23（火）17：00　郵送/FAX；6/19（金）必着

事務局営業カレンダー

■ お休み　＊印は振替休日です

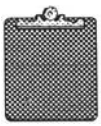
6月/June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15*	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月/July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13*	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

化石研究会50周年記念総会・討論会

化石研究会は1959年に設立され，今年で50周年となります．そこで，来る第27回（通算131回）総会・学術大会を創設50周年記念大会とし，シンポジウムや祝賀会を開催することになりました．この記念すべき大会にぜひ多くの会員のご参加をお待ちしております．

日時：2009年６月13日（土）午後～14日（日）午前・午後

会場：鶴見大学歯学部（横浜市鶴見区鶴見2-1-3）

１．記念総会・学術討論会

期日：2009年６月13日（土）午後～14日（日）

会場：鶴見大学歯学部

●講　演「化石研創設をめぐって（仮題）」
大森昌衛会員・秋山雅彦会員（予定）
創設時等会員への感謝状贈呈式

●シンポジウム「化石研究会における研究活動の成果（仮題）」
古生態（マクロ）領域の研究（生痕，生物地理，機能形態，古生態）
微細構造の領域の研究（硬組織の微細構造，石灰化と有機物）
進化の領域の研究（微生物，進化論，地球の歴史）

●ポスター発表　今回は通常の会員の個人発表はすべてポスター展示となります．【申込必要】

●展示会（化石研の歴史や化石標本などに関する展示）
化石研の歴史を示す写真，資料，貴重な化石標本などを会員から募集して展示します．【申込必要】

２．記念祝賀会

期日：2009年６月13日（土）
18：00-20：30（予定）

会場：鶴見大学歯学部付属病院レストラン「サクセス」

会費：6000円【申込必要】（締切４月30日）

問い合わせ先：
〒525-0001滋賀県草津市下物町1091
滋賀県立琵琶湖博物館　化石研究会事務局
電話　077-568-4828（地学研究室）
e-mail : takahasi@lbm.go.jp

第25回ゼオライト研究発表会

主催：ゼオライト学会

共催：日本地質学会ほか

テーマ：ゼオライト，メソ多孔体，およびその類縁化合物に関連した研究の基礎から応用まで

日時：2009年11月25日（水）～11月26日（木）

会場：西日本総合展示場新館展示場（〒802-0001　北九州市小倉北区浅野3-8-1）
リーガロイヤルホテル小倉（〒802-0001　北九州市小倉北区浅野2-14-2）

参加登録費（予稿集代を含む．当日申し受けます．）：
会員　5,000円（主催ならびに共催等の学協会の個人会員，およびゼオライト学会団体会員の法人に所属の方を含む）/非会員10,000円/学生　2,000円

講演申込締切：**2009年８月12日（水）**

連絡先および問合先：
浅岡佐知夫
（北九州市立大学国際環境工学部）
TEL：093-695-3290，FAX：093-695-3382，
e-mail : asaoka@env.kitakyu-u.ac.jp

くわしくは，こちら，http://www.jaz-online.org/

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

茨城大学理学部理学科地球環境科学領域教員の公募

１．職名・人数：助教１名（任期付きではありません）

２．所属：理学部理学科地球環境科学領域

３．応募資格：

(1) 理学部におけるフィールドワークを含む岩石学分野の講義・実験・実習等を担当できる，JABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラムにおいても，高度な専門的能力を有する人材の育成を分担できる方．

(2) 博士の学位を有し，大学院理工学研究科博士前期課程において講義を担当できる方．

(3) 岩石学・鉱物学に用いる（機器分析センター設置の機器を含む）分析機器や実験室を利用し，その管理，保守を分担できる方．

４．採用予定日：2009年11月１日

５．応募締切：**2009年６月30日（火）必着**

６．提出書類：

(1) 履歴書（市販のもので可．写真貼付），

(2) 研究業績目録（以下のように区分して記載）A.査読付きの論文（総説を含む）/B.査読のない論文（総説を含む）/C.著書/D.報告書その他の出版物で特に参考になるもの，(3) 主な論文の別刷または著書５編以内（複写可）とその内容の簡単な解説，(4) これまでの研究経過と教育活動（主な野外調査経験，国外・国内の共同研究への参加状況，国際・国内学会での主な講演，受賞，現在までに取得した競争的資金，教育経験など，特記すべき事柄を含めてください．Ａ４用紙２枚程度），(5) 教育への抱負（Ａ４用紙１枚程度），(6) 今後の研究計画（Ａ４用紙１枚程度），(7) 応募者について参考意見をいただける方（２名）の氏名および連絡先（所属，住所，連絡先，E-mail）

７．書類送付先および問い合わせ先：
〒310-8512　水戸市文京2-1-1
茨城大学理学部教員選考委員会（地球環境科学領域）
委員長　安藤寿男
TEL : 029-228-8391
Email : ando@mx.ibaraki.ac.jp

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

第４回「科学の芽」賞募集

後援：日本地質学会ほか

趣旨：筑波大学の前身の東京教育大学の学長を務めるなど，本学にゆかりのあるノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎博士の功績を称え，それを後続の若い世代に伝えていくとともに，小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的としたコンクールを行い「科学の芽」賞を授与します．

応募要領：応募資格

全国の小学校３学年～中学校・高等学校（高等専門学校３年次までを含む．），中等教育学校，特別支援学校の個人若しくは団体「小学生部門」，「中学生部門」，「高校生部門」に分けて公募します．

応募作品は，レポート用紙Ａ４判10枚以内にまとめてください．原稿作成は，手書き，ワード，どちらでもかまいません．

応募期間：**2009年８月20日（木）～９月30日（水）〔消印有効〕**

応募のきまり：応募の際は，第４回「科学の芽」賞応募用紙を出力し，必要事項を記入のうえ，応募作品と一緒に提出してください．

送付先：〒112-0012　東京都文京区大塚 3-29-1
筑波大学附属学校教育局「科学の芽」賞実行委員会宛
詳しくは，http://www.tsukuba.ac.jp/community/kagakunome/oubo.html

住友財団2009年度基礎科学研究助成

対象　理学（数学，物理学，化学，生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む）

応募資格　若手研究者（個人またはグループ）

助成金額
（1）助成金の総額　　1億4000万円
（2）1件当たりの助成額　最大500万円
（3）助成件数の目処　　100件程度
（4）助成期間　　1年間　但し希望される場合は更に6ケ月間を限度として延長可.

応募方法
住友財団のホームページ（http://www.sumitomo.or.jp/）基礎科学研究助成から，募集要項・申請書記入要領・申請書フォーム（PDF WORD）をダウンロードして申請書ファイルを作成していただきます.その後に，ファイルから申請書を印刷して財団まで郵送していただきます.

応募締切日　**2009年6月30日（火）必着**

連絡先
〒105-0012 東京都港区芝大門1-12-16
住友芝大門ビル2号館
公益財団法人　住友財団（担当　中山）
TEL 03-5473-0161　　FAX 03-5473-8471
E-mail：sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp
http://www.sumitomo.or.jp/

CALENDAR

2009.5～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています.
☆印は，日本地質学会行事.

2009年
5月　May

☆日本地質学会第116年総会および一般社団法人第1総会
5月17日（日）17：45～19：30
場所：幕張メッセ国際会議場
http://geosociety.jp

○日本地球惑星科学連合2009年大会
5月16日（土）～21日（木）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/

○原子力総合シンポジウム20091
5月27日（水）～28日（木）
会場：日本学術会議講堂　参加費無料
http://www.aesj.or.jp/symposium/form.shtml

○日本地下水学会50周年記念講演会
地球の未来、地下水の役割
5月29日（金）
場所：日本科学未来館（東京都江東区）
http://jagh.jp/

○日本地下水学会2009年春季講演会
5月30日（土）（記念講演会・式典の翌日）
場所：東京大学駒場キャンパス
http://jagh.jp/

☆北海道支部総会・個人講演会
5月30日（土）13：30～（予定）
場所：北海道大学理学部7号館（予定）
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html

6月　June

☆関東支部総会・地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム・研究発表会
6月6日（土）
会場：国立科学博物館新宿分館（予定）
http://kanto.geosociety.jp/

○化石研究会50周年記念総会・討論会
6月13日（土）午後～14日（日）
会場：鶴見大学歯学部
http://wwwsoc.nii.ac.jp/frsj/

☆2009年中部支部年会のお知らせ
6月13日（土）総会・シンポジウム・懇親会
6月14日（日）地質巡検
会場：山梨大学教育人間科学部講義棟
シンポジウム：「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」

○地質学史懇話会
6月20日（土）13：30～17：00
場所：北とぴあ803号室（東京都北区JR王子駅下車3分）
諏訪兼位「坪井誠太郎の生涯と業績」/山田直利「予察地質図（1886－1895）をよむ－ナウマンから原田・巨智部へ－」

○GEOINFORUM-2009
第20回日本情報地質学会総会・講演会
6月25日（木）～26日（金）
会場：沖縄県青年会館
http://www.jsgi.org/

7月　July

○第46回アイソトープ・放射線研究発表会
7月1日（水）～3日（金）
会場：日本科学未来館（東京都江東区）
http://www.jrias.or.jp/

8月　August

○ZMPC2009国際会議
International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009
8月3日（月）～7日（金）
会場：早稲田大学（東京都新宿区）
http://www.zmpc.org/

9月　September

☆日本地質学会第116年学術大会
9月4日（金）～6日（日）
会場：岡山理科大学ほか
http://geosociety.jp

○第53回粘土科学討論会
9月10日（木）～11日（金）
会場：岩手大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/

○第3回国際地学オリンピック台湾大会（国際大会）
9月14日（月）～22日（火）（予定）
場所：台湾
http://www.jeso.jp/

○2009年度日本地球化学会年会
9月15日（火）～17日（木）
会場：広島大学理学部
共催：日本地質学会ほか
http://www.geochem.jp/index.html

11月　November

○第25回ゼオライト研究発表会
11月25日（水）～11月26日（木）
会場：西日本総合展示場新館展示場（北九州市小倉）
http://www.jaz-online.org/

紹　介

Art Forms in Nature：
生物の驚異的な形

エルンスト・ヘッケル　著

河出書房新社，2009年４月20日初版発行，
141ページ，ISBN978-4-309-25224-7，
定価2800円（税別）

リフャルト・ハートマン　序文，オラフ・ブライトバッハ，イレネウス・アイブル－アイベスフェルト　解説，小畠郁夫　日本語版監修，戸田裕之　訳

地球温暖化問題に注意を喚起するためにも，またこの46億年の地球史のためにも，生物の進化問題に注意する必要があることを2008年３月の「日本地質学会News」（11（3））で紹介した小畠郁夫氏（監訳）と吉田春美氏（訳）の新著「骨から見る生物の進化EVOLUTION」（河出書房新社）を多くの方々にご覧いただいた．

これに加えて，今回の新書として小畠郁夫氏と戸田裕之氏による書著で，ドイツの生物学者・哲学者であったエルンスト・ヘッケル（1834－1919）に関するものをここに紹介したい．エルンスト・ヘッケルの考え方として，個体発生は系統発生を繰り返すという「生物発生原則」を主張し，ダーウィンの進化論を強力に支持している．このダーウィンの進化論を中心にした新本「Art Forms in Nature 生物の驚異的な形」が小畠郁夫氏と戸田裕之氏により出版されたのである．ここに紹介するように，本書は系統発生に関する生物発生原則にもとづく進化論学者エルンスト・ヘッケルの「美の進化」を基にして，太古の原生生物から無脊椎動物，植物から動物まで，自然界を楽しませてくれる．

なお，小畠郁夫氏（理学博士）は九州大学を卒業したのち国立科学博物館地学研究部長を務め，現在は国立科学博物館名誉会員である．小畠郁夫氏の著書に「白亜紀の自然史」他，訳書に「恐竜探検記」他，監訳書に「骨から見る生物の進化」他，など多数の本を出している．戸田裕之氏は島根県生まれで，海外の多数の訳書を作成している．

本書の目次は次の通りである：序文　――リヒャルト・ホートマン，ハッケルの詳細な図版を鑑賞するための短い説明　――オラフ・ブライトバッハ，エルンスト・ヘッケル――科学者のなかの芸術家　――イレネウス・アイブル－アイベスフェルト，詳細な図版　――エルンスト・ヘッケル，略年譜――オルフ・ブライトバッハ，詳細な図版のリスト　――オルフ・ブライトバッハ．

本書の内容について，次の内部構成から目次の要所を見ていただきたい．

序文　――リヒャルト・ホートマンが本書の目標と生物学的・科学的な自然が示されている．

ハッケルの詳細な図版を鑑賞するための短い説明　――オラフ・ブライトバッハは本書について図１～11を使いながら，「エルンスト・ヘッケル――生物学者」，「ヘッケルの理論」，「動物学的な仕事としての本書」，「奇妙な生物学」，「イメージにあける論証」，「生物体の対称性」，「自然大系？」，「図解」，「芸術的な形」，「自然に蝕発された装飾」，「自然の美しさ」，「自然を見ること」，などの順序で解説している．最初に生物学者エルンスト・ヘッケルの人生や進化論への貢献が示され，さらにヘッケルの多くの活躍が紹介されている．

エルンスト・ヘッケル――科学者のなかの芸術家　――イレネウス・アイブル－アイベスフェルトはまた，エルンスト・ヘッケルの芸術家的な科学者について，図１～18を使いながら解説をしている．この中の最初に，ヘッケルに次の言葉を与えている：「芸術は完全な「人類の糧」である．これは存在の基本であり，生きていく手段であり，芸術は疲れを知らないが故に，疲れを知らない永遠の生命なのである．なぜなら，芸術においては，創造性は限界を知らないからである．エルンスト・フックス（1977年）」．

科学者としてのエルンスト・ヘッケルの特性については，芸術としての進化論を基にして詳しく説明されている．

詳細な図版　――エルンスト・ヘッケルによる図版100部からなる．これは，141ページの本書を100ページまで占めている．この中に放散虫類，有孔虫類，繊毛虫類，石灰海綿類，六放サンゴ類，各種クラゲ類，ウミエラ類，ウネ類，ウムシ類，フグ類，タコ類，ニマイガイ（二枚貝）類，ラン類，エビ類，トカゲ類，レイヨウ類，などなど極めて多彩な生物の様子を取り扱っている．この図版の中の54部は立派な生物の写真集である．

略年譜　――オルフ・ブライトバッハによると，エルンスト・ヘッケルの1834年２月16日の誕生から1919年８月９日の死去まで，46年間に及ぶ詳細な様子をあげていて極めて興味深くなっている．また，これには11枚の写真や記載報告をあげて，エルンスト・ヘッケルの貢献が示されている．このエルンスト・ヘッケルの様子を理解するうえにも，この略年譜における特性は極めて重要である．

詳細な図版のリスト　――オルフ・ブライトバッハにより，図版１～100のリストによって，生物類の現生種が数多く示されている．

以上のように本書が示すことは，地球の初期から現在まで生物形成は極めて重要であり，これからの地球温暖化問題に大きな貢献を与えることと思われる．これはまた，現在の地球を理解するうえにきわめて重要な参考資料を提供している．とくに，1834－1919年にドイツの重要な生物学者・哲学者であったエルンスト・ヘッケルの働きは私達に多大な影響を与えてくれるので，生物学的，科学的な自然を基にしながら，これからの地球環境問題は極めて貴重となる．ここに本書の一読を強くお勧めしたい．

（岡田博有）

書評・献本

下記の献本をいただいています．書評執筆の労をお取りいただける方はNews誌編集委員会までお知らせ下さい．

『江戸・東京地形学散歩』松田磐余著，之潮　2009年３月発行，2,800円（税別），318ページ　ISBN 978-4-902695090

『地球惑星システム科学入門』鹿園直建著，東京大学出版会　2009年４月発行，2,800円（税別），232ページ　ISBN 978-4-130627146

「地質の日」に関連して各地で開催された，様々なイベントをご紹介しています．地質の日の関連イベントは，http://www.gsj.jp/geologyday/もご参照ください．

日本地質学会

特別講演会
火山はすごい！－日本列島の火山をさぐる

5/10（日）地質の日普及イベントとして，日本火山学会の後援を頂き地質学会会員の鎌田浩毅氏（京都大）を講師に迎え，一般普及向けの特別講演会「火山はすごい！－日本列島の火山をさぐる」を科学技術館（千代田区北の丸公園内）にて開催した．

定員90名の会場は，開場とともにすぐに席が埋まり，立ち見がでるほどの盛況ぶりであった．休日ということもあり，小学生の親子連れの姿なども見かけることができた．

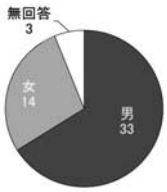
講演は，各地の火山を例にあげて，火山のでき方や噴火のメカニズムなどを紹介しながら，自然災害と火山の恵みなど，話題の豊富な内容であった．また，専門家としていかに一般の人々に科学を伝えていくか，鎌田氏の現在のライフワークの一つであるアウトリーチについても熱心にお話いただいた．氏はTV出演や講演の機会も多く，時折笑いをとりいれた，わかりやすくて楽しい講演であった．長時間の講演にも関わらず，参加者は時間を忘れて聞き入っていた．後半のQ&Aコーナーでは，火山に関する専門的なものから，鎌田氏の奇抜なファッションに関するものまで，参加者から様々な質問が寄せられ，氏が時間のある限りひとつひとつに丁寧に回答する様子が印象的であった．

また質問コーナーの際に簡単なアンケートにも回答していただいたので，下記に紹介する（回答数50）．

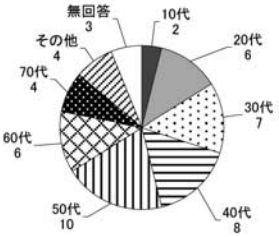
日本地質学会では，今後も一般の方々にわかりやすいアウトリーチ活動をめざして，いろいろな催しを企画していきたいと思います．

（担当理事　**藤林紀枝**）

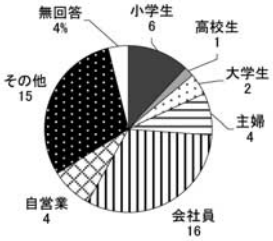
Q１：性別



Q２：年齢

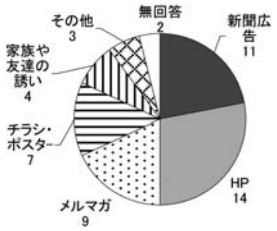


Q３：職業



Q４：親子・家族で参加されましたか？

Q５：このイベントをどのようにしてお知りになりましたか？



専門部会だより

☆構造地質部会

構造地質部会2008年度例会（2009年３月長岡例会）参加報告

構造地質部会2008年度例会（2009年３月長岡例会）が，2009年３月14日から16日にかけて，新潟県長岡市で行われた．今回地元県内での例会ということで，一般口頭発表と例会の準備という，表舞台と裏方の両面で例会に関わらせていただいた．

１日目（3/14）は長岡市中央公民館大ホールにて，東京大学地震研究所の佐藤比呂志教授による市民を対象にした普及講演が行われた．タイトルは「新潟平野の地下構造と直下型地震」であり，地震発生の仕組みから始まって，新潟地域の地下構造と2004年中越地震・2007年中越沖地震の関係，さらに現在新潟地域で行われている地殻構造探査の紹介という，盛りだくさんな内容であった．講演後の質疑応答では，「素人の意見なのですが・・・」と言いつつも鋭い意見が多く，地震に対しての関心の高さに驚かされた．

２日目（3/15）からは，会場を長岡市民営国民宿舎悠久山湯元館に移し，招待講演，一般口頭発表及びポスター発表が行われた．招待講演は，「放射性廃棄物地層処分関連」，「活断層のモデリング」，「CO_2地中貯留関連」，「石油探査と構造地質学」という４つのテーマで行われた．どのテーマも現在，社会で最も注目されている事柄である．私もテレビや雑誌で大まかなことは理解していたが，具体的な研究内容についてはほとんど知らなかったので，とても勉強になった．

招待講演後の総合討論では，データを自分たちの中に留めがちな，すなわち保守的な理学系大学（理学系企業）と，データを積極的に外部に出し，よい製品を共同開発しようとする工学系大学（工学系企業）の違いや，どうすれば地質（地学）を学ぶ若者を増やせるかについて，熱い議論が交わされた．

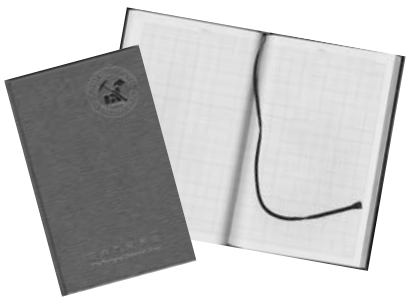
夕食と引き続く懇親会時には，ポスター発表が行われた．様々な職種の方々と話す機会があり，地質系の職業について具体的なイメージを持つことができた．また，他大学の学生と自分達の卒論の内容や卒業後の進路，それぞれの大学の様子などについてお酒を飲みつつ深夜まで語ることができた．

３日目（3/16）には一般口頭発表が行われた．同じ分野で研究をされている方の発表ということで，どの発表も興味深く聞くことができた．さらにこの日，私は大学以外の場で初めて発表した．発表はかなり緊張したが，自分の研究について伝えたいことがちゃんと伝えられたのでよかった．

この３日間で私は学会に対するイメージが変わった．偏った考え方だったが，今まで学会は偉そうな大学の先生が難しい話をする場だと思っていた．しかし，今回実際に参加・発表してみて，学会は色々な職種の人が集まる場で，私の卒論終了直後のつたない発表でもちゃんと最後まで聞いていただき，丁寧な質問や意見をしていただけることがわかったし，うれしかった．発表の準備はとても大変だったが，例会では多くの方と意見を交わすことができ，新鮮で充実した３日間を過ごすことができた．

（新潟大学大学院自然科学研究科　**田中麻衣**）

学会オリジナルフィールドノート好評発売中！！



サイズ：12×19cm．ハードカバー，ビニールレザー加工，金箔押し．
カラー：チョコレートブラウン．
　用紙は野外調査に最適な，雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています．是非ご活用下さい．
ご購入を希望の方は，学会事務局まで．　会員頒価　500円／冊．

☆北海道支部 お知らせ

「北海道地質百選」のウェブサイトを全面的に更新しました

北海道支部では「北海道地質百選」の活動を行ってきました．今回，2009年地質の日を期してウェブサイトを全面的に更新しました．北海道の魅力ある地質・地形を紹介しています．ぜひご覧になって下さい．

また，「北海道にはこんな面白い地質があるよ」と言う材料をお持ちであれば，どしどし投稿をお願いいたします．投稿方法などはウェブサイトをご覧下さい．

＜http://www.geosites-hokkaido.org/＞

お問い合わせ
日本地質学会北海道支部
北海道地質百選事務局
〒064-0807　札幌市中央区南７条西1丁目13　第３弘安ビル
明治コンサルタント株式会社気付
北海道地質百選事務局事務局長　重野聖之
TEL 011-562-3066　FAX 011-562-3199
mail：jimu@geosites-hokkaido.org

☆関東支部 お知らせ

第６回技術伝承講習会 ―地質技師長に聞く地質工学余話シリーズ

「山岳トンネルの地下水問題にどう取り組んできたか」
講師　大島洋志
（国際航業株式会社上席フェロー技術センター長：前日本応用地質学会会長（2000年～2003年））

演者は，若いころからの現場経験をもとに水収支的観点にたった水文地質学的な地質調査の体系化に取り組まれてきた．その成果は整備新幹線のトンネル路線選定などにも活用されている．現在もなお，地下水に起因する，難問題をかかえるトンネルのアドバイザーとして活躍されている．今回の講演では，主に山岳トンネルの建設や維持管理の分野で，地質工学的判断が如何に大切かを関係者に理解して貰うための苦心談を中心にお話しいただく予定です．

日時：**2009年６月６日（土）**10：00-12：00
場所：国立科学博物館　新宿分館
主催：日本地質学会関東支部
共催：国立科学博物館
協賛：（社）全国地質調査業協会連合会　関東地質調査業協会
CPD：２単位（CPDH＝１）
参加費無料　どなたでも参加できます
募集人員：120名　下記の申し込み先まで．**定員になり次第締め切らせていただきます．**
申込方法：ジオ・スクーリングネット（GSネット）にて公開される申し込み欄，若しくは，下記担当幹事のメールアドレスまたは日本地質学会事務局へFAXにて．
申込先：ジオ・スクーリングネット（GSネット）
http://www.web-gis.jp/~geo/index.php
関東支部担当幹事　緒方信一（中央開発（株））
ogata@ckcnet.co.jp（兼，問合せ先）
日本地質学会事務局気付　関東支部　FAX：03-5823-1156

第３回支部研究発表会・日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム

「関東地方の地質：研究の進展と今後の課題」
日時：**2009年６月６日（土）**13：00-17：10
場所：国立科学博物館　新宿分館
主催：日本地質学会関東支部，日本地方地質誌「関東地方」編集委員会
共催：国立科学博物館，産業技術総合研究所地質調査総合センター
後援：株式会社朝倉書店
協賛：国際惑星地球年（IYPE）日本
参加費無料　どなたでも参加できます

日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム プログラム
13：00-13：05　開会挨拶　中山俊雄
（関東支部長代理：東京都土木技術センター）
13：05-13：20　日本地方地質誌「関東地方」の概要．
佐藤　正（日本地方地質誌「関東地方」編集委員長：深田地質研究所）
13：20-14：00　【中・古生界トピック】
関東山地の秩父帯－その後の新展開－
久田健一郎（筑波大）
14：00-14：40　【第三系トピック】
日本海の拡大に伴う東北日本弧と西南日本弧の右横ずれテクトニクス
高橋雅紀（産業技術総合研究所）
14：40-14：50　休憩
14：50-15：20　ポスター発表（一般講演）紹介
15：20-16：20　ポスターセッション：コアタイム
16：20-17：00　【第四系トピック】
関東地方を軸とするテフロクロノロジーに基づく第四紀の年代枠組み
１）上総層群の層序・編年・構造に関する最近の研究
鈴木毅彦（首都大学東京）
２）台地～平野中央部の中－上部更新統
中里裕臣（農研機構農村工学研究所）
17：00-17：10　閉会挨拶　加藤碩一
（日本地方地質誌刊行委員長；元関東支部長；産総研）
17：10-17：40　関東支部総会

支部研究発表会（一般講演・ポスター発表）プログラム
Ｐ１：関東山地北部秩父帯のユニット累重関係とチャート角礫岩に関する研究．仁田坂淳史（筑波大）
Ｐ２：関東山地東部，横瀬町南部の秩父累帯．加藤　潔（駒澤大）
Ｐ３：足尾山地南部から産出するマンガンスフェリュールの放散虫化石年代．荒川竜一（足利市立協和中）
Ｐ４：関東山地秩父累帯の両神山チャートユニット（サブユニット１）の地質構成と分布様式．伊藤　剛・松岡　篤

（新潟大）
P５：関東山地北東縁における中央構造線沿いの断層岩類．金山健太郎・小林健太（新潟大）
P６：最古の関東地方地質図-1887年（明治20年）に出版された40万分の１「予察東部地質図」．山田直利（元地質調査所）
P７：産総研地質調査総合センター発行の特殊地質図No.39「千葉県清和県民の森周辺の地質図（１万５千分の１）と同説明書」の内容と特徴．徳橋秀一（産総研）・石原与四郎（福岡大）
P８：相模層群長沼層（更新世中期）産介形虫化石群と古生物地理学的意義．小沢広和（国立科学博）
P９：中川低地沿いの更新統下総層群の層序と地質構造．中澤努（産総研）・中里裕臣（農研機構農工研）・中山俊雄（東京都土木技術センター）・八戸昭一（埼玉県環境科学国際センター）
P10：千葉県木更津市南部に分布する下総層群木下層の有孔虫化石．金子　稔（群馬県立太田女子高）・石川博行（太田市立北中）・野村正弘（駿河台大）
P11：茨城県行方・鹿島台地における下総層群のMIS7層準－上泉層，清川層，横田層の対比と指標テフラ－．大井信三（国土地理院・茨城大）・横山芳春（横須賀市在住）・石崎光・安藤寿男（茨城大）
P12：四阿火山起源噴出物の岩石記載的特徴と火砕物の地域間対比．大石雅之（東京都市大）
P13：中川低地越谷地域の沖積最上部層と微地形形成－テフラ分析による河畔砂丘形成年代の推定－．清水　整・須貝俊彦（東京大）・岩崎英二郎（住友重機械）
P14：軟質岩における初生的な変状を考慮した掘削法面対策例．緒方信一・山本昭夫（中央開発（株））

【支部総会のお知らせ】

当日は，シンポジウムに引き続き2009年度支部総会も予定されております．あわせてご出席のほどよろしくお願い申し上げます．

※支部会員の方で総会に欠席される方は，委任状をお送りください．

＜委任状送付方法＞

E-mailアドレスを登録している関東支部会員の方には，総会案内メールを送信いたします（５月予定）．案内メールの指示に従いご返送ください．

郵送またはFaxの場合は委任状フォームに必要事項を記入のうえ下記にお送りください．

委任状送付先：
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６F
日本地質学会事務局気付　関東支部事務局
Fax：03-5823-1156
委任状締切：（2009年６月５日必着）

関東支部総会委任状

2009年６月６日（土）開催の日本地質学会関東支部総会に出席できませんので，当日一切の議決権を　　君（又は，議長）に委任します．

2009年　　月　　日

住　所：

会員氏名：　　印

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

「箱根火山たんけんマップ　一今，生きている火山」

新シリーズ登場！

A2版両面フルカラー印刷．
ハンディタイプで野外での観察に最適です．
教材としてもぜひご活用下さい．

小・中学生向け地質リーフレット新登場．
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで．<main@geosociety.jp>　電話03-5823-1150

会員頒価　300円

院生コーナー

12th International Palynological Congress and 8th International Organisation of Palaeobotany Conference 参加報告

田中智史
早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程

2008年８月30日～９月５日の日程で，ドイツのボン大学において12th International Palynological Congress（第12回国際花粉学会議）と8th International Organisation of Palaeobotany Conference（第８回国際古植物学会議）の合同会議が行われた．この国際会議は４年に一度行われる国際花粉学会連盟（International Federationof Palynological Societies）と国際古植物学協会（International Organisation of Palaeobotany）が合同で実施する国際会議であり，地球史における植物の進化史および古環境の変遷といった古生物学的研究や，空中花粉や花粉形態などの生物学的研究について議論を行うことを目的としている．また，花粉学と古植物学が合同で行うことで，パリノロジー（palynology）という学問の枠組みのなかで，花粉・胞子だけでなく，藻類，アクリターク，堆積物中の有機物に関する広域な議論が行われ，研究者間の交流を深めるものである．前回は花粉学分野と古植物学分野で別個に会議を行っていたが，今回は再び合同で行うこととなった．世界各国より800名以上が参加し，日本からも多くの研究者が参加した．48のプログラムが設けられ，口頭，ポスター発表合わせて発表件数798件という大規模な国際会議となった．

シンポジウムは９月２日を中日として前後３日間ずつ行われた．初日は開会宣言と２件のplenary lectureが行われた後，ボン大学の植物園でIce Breakerパーティーが行われた．パーティーは立食のガーデンパーティーとなっており，バンドによる生演奏で参加者を楽しませていた．もちろんドイツビールのサーバーが用意されており，本場のビールを求めて長い列ができていた．２日目以降は８つの会場とポスター会場に分かれて毎日10以上のプログラムが開催され，中には朝から夕方まで行われているプログラムもあった．２，３，５日目は夕方からplenary lectureが開かれ，大ホールが毎回満席になるほどの盛況であった．４日目の夜はcongress dinnerとしてライン川クルージングが行われた．クルージング中は特にイベントなど無かったが，参加者たちはドイツ料理とワインなどを楽しみながら川沿いに見られる古城等を眺めていた．しかし，私個人はまだ発表が控えており，緊張のためなかなか楽しむことができなかった．

写真１．ライン川クルージングで使用した船．

巡検はプレ巡検５つ，中日巡検８つ（内２つは市内観光），ポスト巡検３つが企画されていた．プレ巡検は申し込む人数が少なく，正式に成立したのは１つだけであった．私も最初に申し込んだ巡検がキャンセルになってしまい，新しく申し込んだ巡検も人数が足りないということであったが，案内人のStephan Schultka博士が個人的に巡検を開催したいということになり，参加者４名の巡検が行われた．この巡検はボン近郊に分布しているデボン系の観察と植物化石の採集であった．道路沿いの小さな露頭や石切り場をまわり，保存の良い植物化石を得ることができた，また，植物化石と一緒に腕足類の化石も採集することができた．巡検ではデボン紀の化石のみを収集した博物館や，石切り場の所有者が収集した化石コレクションを見せてもらうことができた．特に，石切り場の所有者によるプライベートコレクションは規模が大きく，綺麗な植物化石，生痕化石が所狭しと飾られていたうえ，所有者自ら目を輝かせながら化石の説明を行ってくれた．中日巡検はボン近郊のペルム系を巡るコースに参加した．この巡検は参加人数が非常に多く，大型バスでの移動となった．最初に訪れたポイントは丘の上の畑で，畑の転石をよく見ると植物化石が含まれていた．残念なことにここでの化石は風化が激しく，保存の良いものはほとんど得られなかったが，参加者の中には畑を掘り下げて綺麗な植物化石を手にしていた人もいた．この巡検でも二つの博物館を訪れた．一つは非常に小さな博物館だったが，ペルム紀の植物化石のみを展示しており，参加者たちは畑で保存の悪い化石しか採集できなかった代わりに展示してある化石の写真を一生懸命撮っていた．もう一つの博物館は古生代から新生代まで各時代の動植物化石を収集・展示したものであり，これらの化石がすべて個人収集によるものであることが参加者を驚かせていた．ポスト巡検はフランスのアルザス地域，ドイツ南部のホルツマーデン，ゾルンホーフェンを巡る巡検に参加した．

この巡検は当初は９日間の日程で，上述の地域に加えスイス，イタリアも巡る大規模な巡検であったが，1200ユーロという高額な参加費のためか申し込み人数が少なく，キャンセルになりそうであった．しかし，案内人のCarole Gee博士が３日間に短縮し，参加費も235ユーロと格安にアレンジして巡検が行われることとなった．１日目はフランスのアルザス地域の三畳系から産出した化石を展示した博物館を訪れた．この博物館は古城を改装して作られたもので，往時の雰囲気を残した展示室と屋上から眺める景色が非常に良かった．この博物館でGrauvogel-Stamm博士によるレクチャーを受けた後，Grauvogel-Stamm博士宅に保管されているプライベートコレクションを見せてもらった．このコレクションも，ここが博物館かと見紛うほどの質と量で参加者たちの目を楽しませていた．また，Grauvogel-Stamm博士はケーキとワインで参加者たちをもてなしてくれ

写真２．フランスの古城を改装した博物館．

院生コーナー

写真３（左）．Grauvogel-Stamm博士宅のプライベートコレクション．写真４（右）．アンモナイトを探す古植物学者たち．

た．博士宅にある来訪者のサイン帳にはこれまでに訪れた高名な古植物研究者たちのサインが書き込まれており，その中に自分のサインを書くことにかなりの緊張を覚えた．２日目は再びドイツに戻り，シュトゥットガルトの自然史博物館を訪れた後，ホルツマーデンへと向かった．ホルツマーデンでは博物館を見学した後，観光客用の露頭へと行き化石採集を行った．黒色の頁岩からなる露頭をたたくと強い石油臭と共に金色に輝くアンモナイトが密集して産出し，参加者たちを興奮させた．しかし，次の移動時間の関係で滞在時間が短かったため，参加者たちは皆名残惜しそうであった．３日目はゾルンホーフェンへと向かい，石切り場にて化石採集を行った．残念なことに化石を発見できたのは一人だけであったが，教科書などに見られる始祖鳥の産地に行くことができたことは良い経験になった．この巡検の全日程において案内人の一人であるMartin Sander博士はドイツの地質等に関して詳しく解説をしてくださり，大変勉強になった．

今回の会議参加に当たっては，日本花粉学会より多大な援助を頂いた．また，ドイツ滞在中には中央大学の西田治文先生を始めとして，多くの日本人参加者にお世話になった．この場をお借りして心より御礼申し上げる．

次回の会議は，2012年に東京都の中央大学理工学部で今回と同様に花粉・古植物の合同で行われる．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp　宮川歩夢（京都大）
horidasu@ms.kagoshima-u.ac.jp　中谷大輔（鹿児島大）
duketogo13@hiroshima-u.ac.jp　東郷徹宏（広島大）
b.honda@ruri.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）

2009年の会費払込について

2009年４月～2010年３月の会費額は下記の通りです．未納の方には督促請求書を送付いたしますが，早急にご送金をお願いいたします．督促請求は５月末頃の予定です．

基本的な請求額は下記①です。アイランドアークを冊子購読されている方は②の金額を加算します．

会員資格	①2009年４月～2010年３月分会費	②アイランドアーク購読料（購読者のみ請求）
正会員	12,000円	8,000円
〃　院生割引　※	8,000円	6,000円
準会員（学部学生）	5,000円	6,000円

※注：大学院に在籍し，定収のない方で所定の申請をされた方のみに適用します．2008年度分までの申請受付は既に終了しました．

１．次回自動引き落としについて（2009年およびそれ以前の会費が未入金の方対象）

次回は，６月23日（火）に引き落としの予定です．

２．自動引き落としの新規申込を受け付けています．登録口座変更の場合もあらためて申込書をお送り下さい．

学会としては，自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．申込は随時受け付けています．

（日本地質学会会計委員会）

追　悼

名誉会員・勘米良亀齢先生の御逝去を悼む

平成21年４月６日，われらが恩師，勘米良亀齢先生は遠くに旅立って行かれました．満85才．御葬儀には門下生が大勢駆けつけ，最後のお別れを申し上げました．御葬儀に参列できなかった者は遠くから心の中で手を合わせました．地質学は言うに及ばず，いろいろな面で教えをいただき，先生を慕う者ばかりです．ここに謹んで哀悼の意を表し，追悼の一文を献げさせていただきます．

先生は大正12年11月１日，熊本県湯前でお生まれになりました．人吉中学，熊本高等工業高校で学ばれた後，昭和18年10月九州帝国大学理学部地質学科に入学され，昭和21年９月同学科を卒業しておられます．同年10月九州帝国大学理学部助手として採用され，昭和62年３月に停年退職されるまでの40年余り一貫して九州大学地質学教室に勤務され，地質学とくに層序学の教育と研究に尽力されました．またいくつもの大学から非常勤講師として招かれ，先生の学風に接した数多くの学生が強い影響を受けたと聞いております．学内では，九州大学附属図書館商議委員，学生部参与などとして大学の管理・運営に尽力されました．学外にあっては日本地質学会評議員、日本古生物学会評議員・同学会特別号編集委員長を永年歴任され，学会の運営・発展に努力されました．さらに文部省学術審議会専門委員，（財）国土開発技術研究センター九州土木地質図作成委員会委員長などとして大きな社会貢献を果たしておられます．

故松本達郎教授の指導の下，先生は卒業論文として熊本県球磨川中流域神瀬帯の地質を研究されました．「箙瀬（えびらせ）のサンドイッチ構造」の提唱は先生の最初の作品であります．その後，研究対象は球磨山地全体に拡がり，1950年代～1960年代を中心にした秩父帯・黒瀬川帯の古生界の層序学的研究へと発展していきました．成果の一部は，故松本達郎先生と共同で執筆された５万分の１「日奈久」図幅（1964年，地質調査所）にまとめられています．また球磨山地を中心としたフズリナ生層序の研究を進められ，国際対比の基準となるフズリナ化石帯区分を次々と確立されました．同時に国内，東南アジア各地でフズリナの古生物学的研究を行い，テチス海におけるフズリナの進化や古生物地理の解明に大きく貢献しておられます．

1970年代に入って先生の眼は日本列島の形成過程の解明に向けられました．塩基性火山岩類，炭酸塩岩，珪質岩の分布・産状，陸源砕屑岩との接触関係などに着目して西南日本の中・古生界テクトニクスの先駆的研究を進められました．最初に手がけられた九州東部四万十帯の研究では，広域にわたるフィールドワークに基づいて層序・構造を解明されています．その結果から，1974年，海洋底の島弧下への沈み込みに伴う海溝充填堆積物と大洋底堆積物の逆断層かき上げを基軸とする太平洋型付加造山の概念を導かれました．いくつかの著書に紹介されているように（例えば，日本地質学会刊　小川・久田著　付加体地質学），九州東部四万十帯の研究はプレートテクトニクスを陸上地質の研究に導入し，フィールドデータから付加体の形成過程を議論した世界初の快挙であります．さらに九州南部日南地域の四万十帯南帯で巨大海底地すべりによる乱雑堆積物（オリストストローム）を認定し，その造山論的意義を明らかにされています．これらの研究成果に対し，その先駆性・革新性ゆえに当初は地向斜論者からの激しい反論がありました．しかし緻密なフィールドワークに裏付けられた先生の見解はすぐに多くの研究者，とくに若手の受け入れるところとなりました．先生が和訳された「付加」（＝accretion）という術語とともに，付加テクトニクスの概念は瞬く間に日本中に浸透し，絶対の支持を受けるに至りました．四万十帯の研究に続いて，1980年代には秋吉帯の研究に進んで行かれました．秋吉石灰岩が大洋性海山に由来し，秋吉帯がペルム紀の付加体であることを明らかにされています．この研究は秋吉海山の衝突，大規模崩壊，付加という作業仮説に発展していきました．

40年余りに及ぶ研究成果は80編余の論文と10数冊の著書にまとめられています．以上のような学問上の功績が認められ，日本地質学会研究奨励賞（昭和25年４月），日本地質学会論文賞（平成４年４月），日本地質学会賞（平成11年３月）を受賞されました．しかしこれらの受賞は先生の御功績のほんの一端を示しているにすぎません．

先生の地質学は一貫してフィールドワークに依って立つものでした．芸術的とさえ思えるルートマップを作りながら，粘り強く露頭と向き合っておられました．事実をありのままに観察し，正しく記述し，考える．そして既存の定説や概念に敢然として挑戦する．「相手がどんな偉い先生でも遠慮する必要はないですよ．正しいと思ったことは臆せず堂々と主張すべきです」とよく言っておられました．そのいっぽうでどうしてもわからない点があれば，それを率直に認められました．私はこれが研究に対する先生の基本的な姿勢のひとつであったと思います．球磨層に関する論文（地質学雑誌第59巻）の地質図には空白が残っています．この空白こそが研究に対する先生の真摯な姿勢であり，勇気の表れであったと思います．余人にあらず，勘米良亀齢が残した地質図の空白．その空白から新たな研究が芽吹き，発展していくことを先生は信じておられました．

自然と学問を愛し，御家族を，学生を，人を愛した先生に接した者はみな，素朴で暖かいお人柄にふれました．調査中，先生はときどき歌を口ずさんでおられました．それは決まって，「故郷（ふるさと）」でした．きっと先生の故郷，湯前を想っておられたにちがいありません．

この追悼文を最終講義（昭和62年３月）での先生の言葉を記してしめくくらせていただきます．「九大地質教室の先生がた，目が眩むような夏の陽射しのなかでも，凍えるような冬の寒さのなかでも，どんなときでもどうか学生の先頭に立ってフィールドを歩いていただきたいと思います．そうすればきっと学生たちは先生がたについてきます．どうぞよろしくお願いいたします．」そして，「私は野外科学としての地質学を専攻したことをうれしく，また誇りに思います．」

勘米良先生．どうぞ安らかにお眠り下さい．ありがとうございました．

平成21年４月25日

九州大学地球惑星科学教室　**佐野弘好**

（上）古希お祝いの会で挨拶される先生．1993年11月６日．福岡市志賀島の旅館にて．（左）沖縄で開催された地質学会後の巡検での先生．右から勘米良先生，利光誠一氏，中島浩一氏，山縣　毅氏．1988年４月．（産業技術総合研究所・利光誠一氏提供）

学　会　記　事

2008年度　第12回理事会議事録

2009年４月11日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年４月４日（日）
10：00～12：00
場　所：北とぴあ901会議室
出席者：宮下会長，佃副会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　石渡　上砂　倉本　齋藤　坂口　久田　向山　矢島*（各理事），保柳評議員会議長，橋辺（事務局）
*地学教育委員会に出席のため途中抜け
欠席者：岩森　藤林，（委任なし）井龍　小嶋
＊成立員数（12/17）に対し，出席者13名，委任状２名，欠席者２名で，理事会は成立．

○報告その他

・ベトナム地質学会との交流協定について（石渡理事）
先方より書面が届いたが，地質学会としての体制（小委員会設置など）を整える必要があることから保留．
・企画出版（藤林理事）
地学読本（原田委員長）１月に完了することができず，２月から愛智出版の教科書作成
作業により中断している．済み次第，地学読本の編集を再開して，５月の連休前後には形にしたいということ．
・地質の日のイベントとして，鎌田浩毅会員の市民講演会を催すこととした．
日時：５月10日　15時から14時半
会場：科学技術館
演題：火山はすごい！　日本列島の火山をさぐる
後援：日本火山学会

○審議事項

１．評議員会審議事項および議事進行について
２．法人理事会審議事項および議事について
３．その他

2008年度　第13回理事会議事録

2009年５月10日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年４月11日（土）
13：00～15：00
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　岩森　上砂　倉本　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：井龍　石渡　小嶋
＊成立員数（12/17）に対し，出席者　14名，委任状２名，欠席者１名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

○報告

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
・富士学会より，富士山科学的看板設置推進委員会として関係機関に要請を提出するための書類に他学協会と連名で捺印．
・学術会議より「新公益法人への対応及び学協会の機能強化のための学術団体調査」の中間報告があった．
・地下水学会50周年記念式典への招待伺いについて，会長の代理で高木副会長が出席予定．
・日本原子力学会50周年記念式典への招待状に対し，都合悪く欠席の返事
・地惑連合代表者懇談会開催（5/19），会長が出席予定
・筑波大学2009年度「科学の芽賞」の後援依頼があり，承諾した．
・発明の新規性喪失の例外規定の適用を受けるための出願，学術団体指定申請書の提出については提出することとした．
・とやま賞への推薦は残念ながら受賞には至らなかった．

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者　８名（正５，院３）
（正）菅　惠一，中村祐治，浅野裕史，福田登志郎，清崎淳子
（院）滝沢顕吾，東宮　照，深井勇年
２）退会者　17名（正12，院　５）
（正）安藤善之　青木守弘　毛利　崇　後藤和則　田中美那　奥田之宏　大野　実　吉田健一　増山孝行　清崎聖一　増田宏己　金井勝宏
（院）加藤欣也　吉内　佑佳　熊田祐子　半谷徳章　半田さつき
３）逝去者（名誉１）勘米良亀齢
（2009/4/6）
４）３月末日会員数
賛助30，名誉73，正4,118（うち院235），準30，合計4,251（前年同期比－108）
５）50年会員顕彰者　14名（回覧）
・４月定例評議員会への報告から漏れたので，評議員会議事録とともに確認を取る．
鹿島愛彦　小池敏夫　小林忠夫　小村精一　坂口和則　高山俊昭　手塚高清　野田浩司　町田　洋　松山幸弘　丸山順弘　森　　啓　盛谷智之　山崎貞治

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・惑星地球写真コンテストの実施案を検討．

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
１）岡山大会準備状況について
・News誌４月号に予告記事掲載準備中，プログラムは７月号，例年より１か月前倒し
・講演締切　6/23，参加登録締切8/17
２）地質情報展の大枠
・展示日程　9/5-6（土日），9/4設営，午後press公開
・会場　デジタルミュージアム　展示室と講義室
・地質学会は展示室の一部と講義室の9/5（全日），9/6午前を使用．
会場費地質学会負担132,400円（講義室の２日分）
３）2011年大会：中部支部担当，富山大学で開催
日程：2010年９月18日（土）
～20日（月・祝日）
場所：富山大学
実行委員会　委員長：竹内　章（富山大学），事務局長：大藤　茂（富山大学），普及・企画（市民講演会）：藤田将人（富山市科学博物館），見学旅行については，他大学に依頼予定
４）日本地質学会の行事として，５月10日（会場：東京北の丸　科学技術館）に鎌田浩毅会員を講師に市民講演会を開催

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通り（４月10日現在）．
115-04月号：論説３　短報１　口絵１（43p. 校正中）
2009年度投稿論文　総数17編［論説６（和文６），総説３（和文３）短報６（和文６），ノート２（和文２）］口絵２（欧文１・和文１）
投稿数昨年比　－13　査読中65編
受理済み23編（うち論説６　特集号17）
・J-STAGE公開用PDFのカラー図表の差替掲載について，著者負担（￥5,000/論文）で115巻５月号掲載分より実施予定

・まもなく特集号「プレート沈み込み帯と地震」が掲載の見込み（6-7月号の見込み）
・地質学雑誌の編集規則について
ニュース誌に関連する部分は除く．ニュース誌は，現状の地質学雑誌の付録という位置づけから，社団法人では独立した出版物とするため．

企画部会報告（岩森）
・インパクトファクター付帯化に関して，3/23のJ-STAGEセミナーへ出席
Web of Scienceへの登録し選定状況や選定基準について確認した．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・IAR編集委員会規則ならびに編集事務局規則の改正について最終検討案
・Wiley-Blackwell社より，IAR2010年購読価格の変更について

企画出版委員会（担当理事-藤林）
・国立公園地質リーフレット：「屋久島」校了　印刷部数　4000部

4．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
地学教育委員会（委員長-中井均）
・学会行事等で地学教育に貢献した方を表彰してはどうか，という委員会の意見が報告された．

5．各委員会等
支部長連絡会議（担当理事-高木）
法人への移行の方針を踏まえ，6月を目処に支部規則案を支部に提示する予定
法務委員会（担当理事・委員長-上砂）
・知的財産基本法による著作物の保護に関し，論文の複製・転載に必要な手続きについて会員に周知するための記事「報告書等の作成に関して―知っておくべきこと―」をgeo-Flash　No.61およびNews誌に掲載することを承認
名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-佃副会長）
今後の検討課題として，以下の論点が報告された．
(1) 人数が他の学会等に比べて多いのでもう少し絞る必要があるのではないか．
(2) ジオパークや国際交流の発展で，会員以外の方も表彰できるようにするべきではないか．

6．IYPE日本（佃副会長）
・4月9日　日本学術会議において，第21期のIYPE小委員会が正式に立ち上がった．委員長:佃，副委員長:倉本
・2010年3月にIYPEを締めくくるアウトリーチイベントが企画されている．地質学会にも参加要請．
・5月2日東京地学協会のIYPEイベントへの参加要請
→http://wwwsoc.nii.ac.jp/tokyogeo/news/0000000076.html

7．地学オリンピック日本委員会（久田）
4名の日本代表を決定した．5月の地球惑星連合大会で表彰する．

○審議事項
1．総会議案資料について
内容を確認した．
2．惑星地球写真コンテスト実施について
広報委員会から提案のに基づいて6月に募集開始の予定
3．その他
先の評議員会より懸案であった大学における地学系のフィールド教育の強化のための全国的な連携について，文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に応募できるかどうかを検討することとした．

2008年度　第4回 定例評議員会議事録

2009年5月21日
日本地質学会評議員会
議長　保柳康一

日　時：2009年4月4日（土）
13：00～15：45
会　場：北とぴあ　901会議室
出席者：出席者：会長　宮下純夫　副会長　高木秀雄　佃　栄吉
評議員（15名）　永広昌之　川端清司　新妻信明　保柳康一　堀　利栄　脇田浩二　安藤寿男　伊藤谷生　岡　孝雄　小山内康人　狩野謙一　公文富士夫　滝田良基　松原典孝　吉川敏之
理事（13名）渡部芳夫　石渡　明　井龍康文　上砂正一　倉本真一　小嶋　智　坂口有人　斎藤　眞　向山　栄　藤本光一郎　久田健一郎　矢島道子　（事務局）橋辺菊恵
欠席者　評議員（委任状22名）：阿部国広　足立勝治　荒戸裕之　磯崎行雄　磯野　清　卜部厚志　大友幸子　北里　洋　木村　学　佐々木和彦　柴　正博　芝川明義　高橋正樹　中川光弘　松岡　篤　松本俊幸　丸山茂徳　三宅康幸　村山雅史　山路　敦　山根　誠　渡辺真人
欠席者　評議員（委任状なし2名）：沢田順弘　紺谷吉弘
理事（2名）　藤林紀枝　岩森　光
＊出席者成立員数（20/39）に対し，出席15名，委任状22名で，評議員会は成立．
＊書記の選出：公文富士夫・滝田良基

○報告事項
1．理事会報告（常置および外部委員会，研究委員会含む）
(1) 運営財政部会
1）総務委員会（部会長-上砂）
・地球惑星科学連合への加盟登録申請をした．
・地球惑星科学連合より，委員会委員の推薦依頼があり以下のように推薦した．
キャリアパス支援小委員会へ委員：佐々木和彦会員
環境・災害対応委員会：災害の委員として横山俊治会員（応用地質部会推薦），環境の委員として小荒井衛会員（環境地質部会推薦）
学術出版委員会：井龍康文会員
・共同利用施設拠点認定のための要望書提出の要請が以下の施設からあり応じた．
高知大学海洋コア総合研究センター
埼玉大学地圏科学研究センター
信州大学山岳科学総合研究所
・東レ科学振興会の「理科教育賞文部科学大臣賞」を杉山了三会員（盛岡一高）が受賞
・産総研とのH21年度共同研究「地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究」の契約書を交わした．
・以下の団体等から後援，共催の依頼があり，承諾した．
日本ジオパーク委員会の記念式典の後援（2月20日）．
茨城大学主催のシンポジウム「茨城県北地域振興の新たな可能性をさぐる－茨城県北ジオパークをめざして－」を後援（2月1日）
原子力総合シンポジウム2009（原子力学会，5月開催）の共催
2009年度地球化学会年会（9月15-17，広島大学）共催
第53回粘土科学討論会（粘土学会，9月10-11日，岩手大学）共催

2）会員委員会（担当理事-向山）
・前回からの入会者数　8名
正会員5名（うち院割0），準会員3名
・前回からの退会者　122名
賛助会員　3件，正会員118名（院割11），準会員1
・逝去者11名　名誉会員　3名　正会員8名
（名誉会員）　藤田和夫（12/1）　加藤磐雄（12/27）松本達郎（2009/2/7）
（正会員）金子史郎（2008/3/14）　林行敏（6/16）　内藤源太朗（9/4）　堀江正治（10月または11月）　遠藤勝壽（11/30）　吉村尚久（12/5）　鎌田泰彦（2009/1/10）　品田芳二郎（2009/3/18）
・2009年3月末除籍者　91名（リスト回覧）

・会員数

	賛助会員	名誉会員	正会員(内 院生割引)	学生会員	合計
2009. 3.31	30	73	4119(235)	30	4252
2008.10.31	33	76	4331(246)	28	4468
前回比	−3	−3	−212(−11)	2	−216

・会員数については予想通りに漸減傾向であることが報告された．逝去者に黙祷．
・永年（50年）会員顕彰予定者（14名）
鹿島愛彦　小池敏夫　小林忠夫　小村精一　坂口和則　高山俊昭　手塚高清　野田浩司　町田　洋　松山幸弘　丸山順弘　森　　啓　盛谷智之　山崎貞治

3）会計委員会（佐々木和彦委員長・担当理事-向山）
・決算概算報告並びに来年度予算案→（審議事項）
・任意団体と一般法人との間の業務委託経費（月額６万円）等の覚書を交わした．
・会員減少による収入の漸減がある．収支のバランスはとれていて，かつ，いくつかの要因によって，赤字予算であったが，最終的には140万円程度の黒字．年会収支は黒字で，鉱物科学会との合同開催による参加者増と販売が好調であった結果．

4）その他
・連合法人化準備委員会（高木委員）
昨年の12月に一般法人化．後公益認定を目指して，組織整備を行っているとのことであった．

5）広報委員会（情報特任担当理事-倉本，委員長-坂口理事）
・Webサイトの整備計画を行うこととした．
・広報誌ジオルジュの発行に際しては原稿の仕上げ作業をアウトソースする方向で検討

(2) 学術研究部会
1）行事委員会（委員長-斎藤理事）
・岡山大会の事前及び当日の業務委託について，イベント会社（株）アカデミックブレインズと請書を交わした．９月４－６日に開催．そのため，例年より２週間ほど前倒しとなっている点に注意が喚起された．
・セッション等への研究者の発表参加の関係で岡山大会を日本地球化学会との共催とすることを承認し，同学会からも承諾された．地球化学会とは今年度の年会において相互に共催関係を結んだ．

2）国際交流委員会（特任担当理事-石渡）
・日韓地質学会の学生交流を進めるために，学生巡検などで現地での交流が積極的に行われるよう，韓国地質学会長あてに協力を依頼し，快諾を得た．今年３月に新潟大学の韓国巡検に適用．
・日本とモンゴル地質学会との交流協定覚書調印に向けて，検討中．
・ベトナムとの交流協定の打診をしたところ，相手方から即答があり，日越小委員会の立ち上げ準備と交流の実質化を進めている．

(3) 編集出版部会
1）地質学雑誌編集委員会（委員長-久田理事）
今月の編集状況は以下の通りです（４月１日現在）．
115-03月号：論説２　ノート１　口絵１（45p. 3/31発送済み）
115-04月号：論説３　短報１　口絵１（45p. 校正中）
2009年度投稿論文　総数15編［論説５（和文５），総説３（和文３）短報６（和文６），ノート１（和文１）］口絵１（欧文1）
投稿数昨年比　−14　査読中59編　受理済み25編（うち論説５　短報２　口絵１　特集号17）
要旨の英文校閲を業者に出すこととした．また，編集委員の集まりをもつこととした．
・編集規約一本化の原案を作成（別紙資料）
国際性を高める努力を新規約に反映させる．キャプションの英文化など．投稿規定と編集規約の一本化．引用文献の英文化＝サイテーションに適合させるため．
編集委員会を開催することに賛成で，委員会の強化を図ってほしいという要望が出された．

2）アイランドアーク編集委員会（編集長-井龍理事，編集事務局長-竹内圭史）
４月１日現在のIsland Arcの編集状況
順調に推移．特集号は幾つも予約済みだが，一般投稿の出版が滞りがち．待ち時間が長くなることに対応して，Early Viewを拡大し，早期公開を図りたい．若手への事情への対応のひとつである．
事故２件：表の版組が不正確になりがち．間違いを見落としてしまうことがある．図の解像度が低いという印刷事故．
隔月化の課題については「ページ数は増やしてきた．次の編集委員会で検討し，出版者側とも交渉したい．」との回答があった．

3）企画出版委員会（担当理事-藤林）
・国立公園地質リーフレット：「屋久島たんけんマップ」は校正中で近日刊行予定．校正刷りが回覧された．
・地方地質誌「近畿地方」３月刊行済み
・地学読本は出版社の都合で刊行が遅れているが，５月の刊行を予定．
・地層処分のリーフレット第１部は2009年度の刊行予定で準備していたが，原稿が遅れているため次年度におくることとした．

(4) 普及教育事業部会
1）地学教育委員会（委員長-中井均，担当理事-矢島）
・３月26日および４月４日に委員会を開催．
新しい地学教育委員会の体制作りについて話し合った．委員長は中井均会員，副委員長に浅野俊雄会員を選出した．

【連合地学教育検討委員会】（阿部）
・地惑連合では，学習指導要領改訂本格実施に向けて，地惑連合が提案した『日本地球惑星科学連合が提案する理科教育の内容』についての教師用テキスト作りを教育課程小委員会が中心に作成している．学術会議社会貢献委員会WGへの協力として，昨年「記録」としてまとめ上げたものに対して国大協を中心に，「高大接続テスト」というような関連する動きが出てきており，それへの議論が始まった．ウェブでの「記録」は連合HPよりダウンロード可能．http://www.jpgu.org/scj/index.html
・理数系学会教育問題連絡会は世話人会を地惑連合から数学関係学会へと交代．
今年度も引き続き教員免許更新講習についての議論を続け，その動きを見守ることにした．

(5) その他理事会関係委員会等報告
1）法務委員会（委員長-上砂理事）
除名申請の出ていた件については，１年間の調査の結果，除名には当たらないと判断した旨，理事会に報告した．
国立公園等での節度ある調査活動については，規制範囲を公的機関のHP等で確認して調査を行うようにすることを周知させる．
出版物利用規程については，学会からの利用許可をとるなどの徹底をはかる．著作権者の自由度は高いが，丸ごと転載については，許可が必要であることは言うまでもない．

2）支部長連絡会議（担当理事-高木副会長）
・支部規約の整備について，支部への意見聴取などをしながら，法人化に伴う支部規則のモデル案の再検討中．

3）ジオパーク支援委員会＊（委員長-天野，担当理事-高木）
・ジオパーク広報宣伝用パンフレット作成し，支部，博物館ジオパーク地域等，その他関係機関に配布，また，会員に周知するため３月号のNews誌に掲載した．

【日本ジオパーク委員会（委員-高木副会長）】
・ユネスコに申請する，世界ジオパークネットワーク（GGN）３件を決定
・２月20日の日本ジオパークネットワーク設立記念式典開催
登録地域　＊印は世界ジオパークネットワーク（GGN）に申請中
アポイ岳，洞爺湖有珠山*，糸魚川*，南アルプス（中央構造線），山陰海岸，室戸，島原半島*

5）法人化作業委員会（担当理事・委員

長-渡部常務理事）
諸規則の策定をし，後の審議事項として報告された．

2．評議員会関係委員会等報告
1）各賞選考委員会（委員長-中川）
各賞の選考を行い，評議員会に報告された．（→審議事項へ）
2）名誉会員推薦委員会（担当理事-佃副会長）
・08年度推薦委員会の構成
支部長：宮坂省吾（北海道），大槻憲四郎（東北），中山俊雄（代理：関東），原山　智（中部），宮田隆夫（近畿），高橋治郎（四国），大木公彦（西日本）
階層別委員：岡村　眞（大学），紺谷吉弘（小中高），植村和彦（公官庁），足立勝治（会社），石渡　明（理事会）
・名誉会員候補者の選考を行って，評議員会に報告した．（→審議事項へ）
3）男女共同参画委員会（委員長-堀）
・3月29日－30日（1泊2日）金沢―石川県能登半島周辺でワークショップを開催．詳細はニュース誌で報告する

3．その他
1）国際地学オリンピック日本委員会（委員長-久田）
地学オリンピック委員会がNPO法人化された．9月に台湾大会が予定されている．2009年度に向けては900名の中・高生の参加.28名の優秀な生徒を選抜した．地学クラブの活動，文系の進学校からの参加が目立つ．
2）地質の日委員会（委員　藤林理事）
「地質の日」（5月10日）のロゴが決定．作者は彦根　正さん（東京都）．Geology Dayの「G」をベースに，重なる「地層」を組み合わせ，「地質の日」の広がりを表現．5月10日に表彰する．

4．理事会審議事項報告（おもなもの）
・法人化と事業移行措置についての基本方針の検討，公益法人認定申請についてのスケジュール等の再確認をした．→（審議事項）
・国立公園リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置について検討した
・地質の日行事として，一般市民向けの講演会を開催することとした．鎌田浩毅会員による「火山はすごい―日本列島の火山をさぐる」，会場：科学技術館

○評議事項
＊成立要件の確認；15名の出席，委任状22名で成立を確認した．
1．2008年度決算案，2009年度事業計画および予算案について
・向山会計担当理事から報告された会計試料をもとに審議を行った．決算案を拍手で承認した．
・宮下会長より別紙資料にもとづいて事業計画が説明された．特に一般社団法人への完全移行を進めることが大きな特徴といえる．引き続いて，向山会計担当理事より，2009年度の事業計画に沿った予算案の提案があった．1000万円を基本財産へ繰り入れること，各種の引当金から，それぞれの事由が発生するものについて取り崩し，支出することが説明された．予算に絡み，いくつかの質問が出された．
・普及講演への科研費申請が不採択になる理由はなにか，と質問があり「いろいろと理由は示されているが，今後はさらに企画内容を工夫する必要がある．」との回答であった．
・地質学雑誌特集号が多く出る可能性に対応する予算の必要はないか，との質問に対し，「特集号の受理済み論文は17編と多いが6つの企画に対して出ているもので，出版できるのは1，2号分程度の見込み．総ページ数はあまり増えない見通し．」との回答があった．
審議の上，2009年度事業計画と予算案が承認された．

2．各賞選考結果について
・高木副会長（中川委員長の代理）から，各賞の選考経過が説明され，以下の選考結果が報告され，承認された．
地質学会賞　2件（鳥海光弘会員，石渡明会員）；柵山雅則賞　1件（水上知行会員）；小沢儀明賞　2件（小宮　剛会員，須藤　斎会員）；国際賞　1件　太田昌秀元ノルウェー極地研究所員；論文賞　2件（高橋雅紀会員論文　2006，守屋俊治会員ほか論文，2008）；小藤賞　1件（嶋田智恵子会員ほか論文，2008）；研究奨励賞　2件（石井英一会員，坂口真澄会員）；地質学会表彰　1件（秋吉台科学博物館）
・推薦理由にネガティブな表現があるのは修正した方がよいとの意見があり，選考委員会で修正を検討することとなった．
・次年度の各賞選考は，任意団体としての評議員会の下で，現在の選考委員が留任して実施することを確認した．ただし，職責委員については変更もありうる．

3．名誉会員候補者の推薦について
名誉会員推薦委員長の佃副会長より，別紙資料に基づき，5名の会員（須鎗和巳会員，飯山敏道会員，相原安津夫会員，原郁夫会員，石崎国熙会員）が名誉会員として推薦され，異議なく総会に推挙することが了承された．なお，残念なこととして，選考中に候補者の品田芳二郎会員が逝去されたことが報告された．その後，今後の検討課題がまとめて紹介され，さらに意見をいただいて，委員会としても今後整理して提起することが説明された．なお，次期の名誉会員推薦委員会の組織は，任意団体としての評議員会の下で選考を行うことが確認された．

4．法人化と事業移行措置についての基本方針
藤本副常務理事より，別紙資料に基づいて，これまでの公益認定までの間は任意団体と法人の並立で行く方針を，地質学会の活動主体を，早期に一般社団法人に移行する方針が提起され，異議無く承認された．

5．公益法人認定申請についての再確認
公益認定については，まだ，認定までの時間的なことや公益認定後の先が読めない状況である，また，公益法人となった場合には会計や事業計画，事業内容などの厳密性が要求され，それらを年度ごとに報告するための書類やそれに対する事務量や経費の増加が見込まれる．公益法人化に伴う負担を考え，よく状況を見てゆく必要がある，といった報告がなされた．それに対して，「これまで公益法人を目指し苦労してきた訳だから，それを先送りするような方針を言うのはおかしい．不満である．理事会できちんと方針をもって，対処してほしい．」という意見が出された．議論はあったが，公益法人化が最大の目標であることには変わりなく，その実現に努力するとした理事会の方針が承認された．

6．総会議案について
別紙資料に基づいて，5月17日に開催される総会議案を確認し，承認された．

7．その他
(1) リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置について
リーフレットの出版を活発にするため，の企画出版委員会の設置に関し，その趣旨ならびに委員会規約案の提案があり，承認された．
(2) 編集規則の改定について
地質学雑誌がサイテイション・インディックス誌として採用されるために，必要最低限の編集規定の改正を行いたい．特に，引用文献の形式を大幅に修正する必要性が説明された．なお，編集に関する各種の規定を統合することも提案され，あわせて，承認された．文献については9月号からの実施を目指す．
(3) その他伊藤評議員よりの要請
1）文科省の新プログラム「先導的大学改革推進委託事業？」大学教育支援　質特化型を活用する形で，地球科学関係のフィールド教育強化への対応を検討している．学会としても協力をお願いしたい．
2）連合のポスドク委員会によるポスドク対策の一環として，現状把握，のため地球惑星科学分野のPD数を調べている．各大学の関連する学科長へ依頼したが，まだ回収が思わしくない．それぞれの数を調べて回答してほしい．

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．
また、申し込み時には、初年度の会費を添えてお申し込みください．
申込書送付先：101－0032　東京都千代田区岩本町2－8－15　井桁ビル６Ｆ　日本地質学会
送金先：郵便振替口座　00140－8－28067　日本地質学会
会費額：正会員12,000円（院生割引＊8,000円、定収のない方に限る）　準会員（旧学生会員）5,000円
＊院生割引を希望される方は、下記の院生割引申請欄に指導教官の署名、捺印をもらってください．

日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan	
＊会員番号	＊会員種別　□正会員（□院生割引）□準会員
氏名（ふりがな）Name in Japanese	ローマ字表記 family name　　first name
_____年Year ____月Mo ____日Day 生born on	Sex：□ 男 Male　□ 女 Female　Country：
学位　Degree: □ 博士Dr. □ 修士 Master □ 技術士 Engineer □ その他 Other	
専門（下欄から3つまで） (Specialities less than 3 items)　1.　　2.　　3.	
学歴 Academic career : _____学校 High school _____年卒業 Year completed _____大学 University_____学部 Faculty_____年卒業（見込み）Year completed 修士 Master :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed 博士 Doctor :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed	
自宅住所Home address （郵便番号Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
所属機関・住所 Affiliation with address :（郵便番号 Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
連絡先 Correspondence :　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office	
紹介者名（正・院生会員）　　印 Recommended by （name of member）_____Signature	
院生割引申請欄：運営細則に基づき会費の院生割引を申請いたします．	
上記本学の学生につき，定収のない院生（研究生）であることを証明いたします． 指導教官（員）　所属：　　氏名：　　印	
＊受付（　　年　　月　　日）＊入金（　　年　　月　　日）振替・現金・銀行・他 ＊承認（　　年　　月　　日）＊送本（　　巻　　号）	

太枠内のみにご記入ください（＊Official use only)
専門分野（番号で）01：層位　02：堆積・堆積岩　03：古生物　04：構造地質　05：火山・火山岩　06：深成岩
07：変成岩　08：鉱床地質（金属・非金属）　09：鉱床　10：鉱物　11：燃料地質　12：地熱　13：第四紀
14：環境地質　15：都市地質　16：土木地質　17：土質工学　18：水文地質　19：探査地質　20：土木工学
21：情報地質　22：地震地質　23：海洋地質　24：地球物理　25：地球化学　26：地質年代学　27：地理
28：地学教育　29：考古学　30：その他　40：地球惑星学

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．

現金書留または郵便振替　00140－8－28067

40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円

第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円

第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円

第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円

第 45 号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）

第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価 1,900円，〒290円

第 47 号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia （IGCP350） Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価 2,100円，〒340円

第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価 2,500円，〒340円

第 50 号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第 51 号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．

第 54 号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~（売り切れました）

第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．

第 58 号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）

大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格 200円（非会員300円）

大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ

1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円（**20部以上購入の場合割引あり**）

2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい―　2009年3月発行　会員価格300円（**20部以上購入の場合割引あり**）

国立公園地質リーフレットシリーズ

1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円（**20部以上購入の場合割引あり**）

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか

第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円

第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円

第114年見学旅行案内書（2007年札幌）　会員頒価2,400円，〒500円

※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp